

第46回宗谷複式教育研究大会幌延・豊富大会について

宗谷複式教育研究連盟 情宣部作成

9月27日（金）、宗谷複式教育研究大会（宗谷管内教育研究大会 兼 幌延町・豊富町教育研究大会）が幌延町立問寒別小学校で開催され、34名の参加者の下、3・4年算数科の授業が公開されました。

参観者が多数のため、第2体育館に教室が設営され、いつもと異なった学習環境の中でしたが、児童は戸惑いを感じさせることなく、積極的かつとても落ち着いて課題に取り組んでいました。

授業では、児童が見通しをもち、主体的に課題に取り組むことができるよう、細やかな手立てが丁寧に設定されていました。指導者はときには児童の発言をゆさぶったり、他の児童の発言をリピートさせたり考えを説明させたりと、理解がより深まる工夫を行っていました。また、児童の発言をよく拾いながら課題を設定したり、まとめを行ったりしていました。どちらの学年の授業も内容がよく練られ、学校全体で研究を進めていることが感じられました。

授業後は、「主体的な学習活動になっていたか？」「学習内容を深めることができていたか？」についてグループごとに研究協議を行い、次ページのような成果や課題が挙げられました。

宗谷管内教育研究大会としては、6つの学校で20の研究授業・研究協議が行われ、約400名が参加しました。午後には15の教科等分科会が開催され、それぞれの学習（研究）テーマについて参加者は理解を深めました。実行委員会の皆様には貴重な研修の機会を設けていただき、大変有意義な学習の場となりました。ありがとうございました。



【3年算数科の様子】



【3年算数科の様子】



【4年算数科の様子】



【研究協議でのグループワークの様子】

授業後の研究協議において、各グループから発表された成果と課題（一部抜粋）

- 授業の流れが確立されているため、安心して児童は参加している。指導者による事前の指示・説明が丁寧なことが児童の主体的な活動につながっている。
- 自力解決の手順が黒板に掲示され、可視化されているため、児童は見通しをもって課題に取り組むことができている。
- 指導者による指示が丁寧で、言葉を大切にしているのがうかがえる。この指導が、自分の言葉による児童の発言につながっている。
- 児童の発言や意見を用いて授業を組み立てているのがよい。
- 児童から適切な考えが出されなかったり、うまくまとまらなかったりしたときの手立てを、指導者が事前に準備できている。
- 両方の学年で課題解決型の授業を進めるのは難しい場合は、課題解決型の授業と教えて考えさせる授業を組み合わせるとはどうか。
- 課題は、自分の考えを他者へ説明することまで求めているため、「考えよう」ではなく「説明しよう」とする方が適切だったのではないか。

【3年算数科について】

- 間違った筆算を提示し、どこが間違っているかを考えさせてみてはどうか。考えさせる時間を縮減し、問題練習の時間を十分に確保する必要があると思われる。

【4年算数科について】

- 自分の考えの発表のときは、他の考えとの並列ではなく、それだけにターゲットを絞って発表させたい。タブレットの画面上でもいいし、図形の紙でもいいので、図形を切ったり動かしたりする操作をさせたい。
- 3年生に直接指導をする時間をつくるため、4年生のグループ思考の進行を児童にまかせることができたと思う。

助言者より

- 児童と担任の信頼関係をベースにした学級経営が行われていることが、よい授業につながっている。
- 児童の実態をよく把握し、細やかな工夫が設けられている。
- 4年の指導に重きを置くため、単元配列を替えている工夫がある。
- 「ふりかえり」を重視することが、既習事項を生かした児童の思考につながっている。
- 教材研究がしっかりなされ、算数用語が児童により活用されている。
- 4年児童による考え方の説明は、それぞれの考えだけを大きく提示させ、説明させたい。
- 児童のつまずきが想定される場合は、同時間接指導の時間を設定し、個別の支援を行うことが一つの手となる。
- 4年のまとめについて
考え方は2パターンではなく、3パターン（つける／ひく／わける）になると思われる。